劇場版　ヨナス・カウフマン　ウイーンコンサートを観て

秋谷寿一（Op.370）

私がウィンナワルツを好きになったのは中学生の頃からでしたが、さらに興味を持つきっかけになったのは 1970 年初めに制作された映画 MGM「美しく青きドナウ」と ZDF 制作のオペレッタ映画「チャールダシュの女王」でした。「美しく青きドナウ」では舞踏会やワルツだけではなく、ポルカ数種とカドリールの演奏と踊りの楽しさを、「チャールダシュの女王」ではルネ・コロとアンナ・モッフォの二人がオペレッタを歌いながらワルツを踊る素晴らしい映像を何度も観てウィンナワルツとオペレッタが好きになり完全な虜になりました。

今回、それらに匹敵するような「劇場版　ヨナス・カウフマン　ウイーンコンサート」のすばらしい映画を観ることができました。

映画は主にウイーン・コンツェルトハウスホールでのコンサートの模様が中心で「こうもり」や「ヴェネチアの一夜」、「メリー・ウィドウ」など、オペレッタから《ヘルノルスの小さなカフェ》やクロイダーの《お別れには「じゃあね」とささやこう》のヴィーナーリート（表）に至るまで素晴らしい演奏や歌声が披露されました。それらの曲の間に音楽との歴史的なつながりを探求するためグリンツィングや中央墓地、プラター公園などの名所をカウフマンが訪れる映像がながれ、そこでインタビューを受けているカウフマンの言葉が私にとってはとても印象的でした。たとえば 14 歳の時初めて両親に連れられてウィーンを訪れ、その後も再訪し文化、オペラ、ブルグ劇場など独特の街の雰囲気に感動し好きになった。また私が電話している時、私は今ウィーン,ハンブルク,スイスのどこにいるかその時の声の調子やアクセントで分かってしまう。オペラ歌手は難しいオペラを歌えなくても「微笑みの国」のスーチョン役なら歌えると言ってオペレッタを大変過小評価しているが、それではダメだ。オペレッタはもっと底が深く素晴らしいものだ。またウィーンにはプッチーニ的なレハールのオペレッタやシュトルツの歌曲などヴィーナーリートやサロン音楽があるが、ヴィーナーリートは力んで歌ってはいけない。ウィーンの人々は芸術・文化・オペラを美化して高く評価しているが、決して国粋主義からではなく心から愛している。ウィーンの人々はたとえ死んでも、天国からいつも素敵な街を上から見降ろしている。など母国語が同じ隣国のドイツ出身者がウィーンを特別な目でみているのに感動しました。そしてこの映画を 2 度見た時に気づきましたが、ただのガラコンサートの映像ではなく、たぶんカウフマンのデビュー時代は「ヴェネチアの一夜」にカラメッロ役で 36 回出演し多くの経験や失敗を経験したことで、はじめにその序曲とアリア 2 曲も歌ったり、ウィーンの街の歴史や音楽のすばらしさを表現するために、オペレッタやヴィーナーリートをうまく組み合わせ、それらの曲の間にホイリゲや中央墓地、プラター、街の空撮を背景にカウフマンのインタビューの言葉をいれて素晴らしい物語（映画）に編集して制作したのではないかと思いました。

さらに 2014 年にドイツで制作された「ドイツ・オペレッタの黄金時代」というカウフマンの特集を最近 CS で観ましたが、そこでもカウフマンはオペレッタの素晴らしさを訴えていました。彼はまずオペレッタの歴史を勉強するためドイツ映画博物館を訪ね 1930 年代の映画や映像、書籍、楽譜を見て、その当時のリヒャルト・タウバーやヨゼフ・シュミット、ヤン・キープラなどのテノール歌手の歌い方を研究したり、なぜオペレッタ「微笑みの国」でレハールとタウバーの名声が頂点を極めたかなど時代的背景や当時の観客の反応などを観察していました。

また作曲家ロベルト・シュトルツの旧自宅に養女のヘンリーさんやエーメリッヒ・カールマンの娘イヴォンヌさんを訪ねいろいろ質問したり、その当時の写真や楽譜を見たりで、カウフマンはオペレッタに対してかなり研究熱心で情熱的なことが印象的でした。

話は遡りますがジャパンツアー2018 カウフマンのオペラアリアを歌うで、私はサントリーホールの前から2列目でレハールの微笑みの国「君は我が心のすべて」とタウバー作曲の「君は我が世界」のすばらしい2曲をアンコールで聞くことができました。

またその年の年末にオペレッタとティーレマンのニューイヤーコンサートを見るため、ドレスデンを含むドイツ4都市とウィーンを訪問しましたが、その時なんとドレスデンのジルベスターコンサートでティーレマンの代わりにウェルザー・メスト指揮でカウフマンが「こうもり」に出演していたと後で知り非常に残念に思ったのですが、その後CSで「こうもり」の録画上映が見られ嬉しかったです。

今年はコロナ禍でオペレッタは見られないかと思っていましたが、二期会の「メリー・ウィドウ」、新国立劇場での「こうもり」を見ることができました。ともに歌はすばらしく、「こうもり」はハインツ・ツェドニック演出で主役はダニエル・シュムッツハルト、アストリッド・ケスラー等外国人中心、ドイツ語で舞台もあたかもウィーン国立歌劇場で観ているような感じでした。しかし残念ながら共にワルツを踊れるダンサーはゼロで、主役級の外国人組の歌手が「こうもり」の2幕でワルツを数秒間踊っただけで、オペレッタの醍醐味は私には感じられませんでした。その上二期会の「メリー・ウィドウ」の舞台は今回外国のような現代的な舞台になってしまい、現在の大使館風の舞台で普通の背広姿では異国情緒もなく、俳優が誰の役をやっているのかさえ見分けがたくなっていました。

劇場というのはある種の夢の世界を見せてくれるものでもありますので、日本では現代風の演出では興がそがれてしまうように感じられるのは私だけでしょうか。特にコロナ下では一層現実を忘れさせてくれる舞台であって欲しかったと思いました。

一方で当協会会員の佐藤智恵さんが主催しているムジカ・チェレステ「メリー・ウィドウ」では舞台はややインド風でしたが、異国情緒があり、踊りも活発でした。特に佐藤さんが主役のハンナを演じ、ワルツだけでなくカンカンの踊りでもヴァランシェンヌよりも中心で踊りまくり楽しいオペレッタでした。オペレッタの3拍子は歌、踊り、芝居であってほしいと思います。　了

上映演奏表

ヨハン・シュトラウス2世/シュタッラ編
喜歌劇『踊り子ファニー・エルスラー』より《ジーヴェリングのリラの花》
喜歌劇『こうもり』より　時計の二重唱《しなやかな身のこなし　あの魅惑的な腰》
喜歌劇『ヴェネツィアの一夜』より　序曲
同　《魅力あふれるヴェネツィアよ》
同《ああ、眺めるだけなら素敵なのだが》(入江のワルツ)
喜歌劇『ウィーン気質』より　二重唱《ただこの夢だけは許せない》(ウィーン気質のワルツ)《チクタク・ポルカ》
エメリッヒ・カールマン
喜歌劇『サーカスの女王』より　《星のように美しい、お伽話のような二つの瞳よ》
ロベルト・シュトルツ
《プラーター公園は花盛り》
行進曲《ウィーンからの挨拶》
喜歌劇『春のパレード』より　《ウィーンは夜が一番美しい》
ヘルマン・レオポルディ
《ヘルナルスの小さなカフェで》
ハンス・マイ
《今日はわが人生で最高の日》
ルドルフ・ジーツィンスキー
《ウィーン、わが夢の町》
フランツ・レハール
喜歌劇『メリー・ウィドウ』より　ヴィリアの歌《昔あるところにヴィリアという森の妖精がおりました》
同　二重唱《唇は語らずとも》(メリー・ウィ

ドウのワルツ)
カール・ツェラー
喜歌劇『小鳥売り』より　《チロルでは薔薇が贈り物》
ペーター・クロイダー
《お別れには「じゃあね」とささやこう》
ゲオルク・クライスラー
《死神ってウィーン人に違いない》

テノール:ヨナス・カウフマン／ソプラノ:レイチェル・ウィリス=ソレンセン／指揮:ヨッヘン・リーダー／プラハ交響楽団

INFORMATION

【演奏会情報 Concert, Japan】

●大阪交響楽団 New Year Concert「展覧会の絵」　1月24日(日)14時　伊賀市文化会館 さまざまホール（三重県伊賀市）
指揮：寺岡 清高　＜曲目＞シャンパン・ポルカ／ウィーンはウィーン／ウィーン気質
問合せ　伊賀市文化会館 0595-24-7015

●新日本フィルハーモニー交響楽団　定期演奏会 #630 トパーズ
2月5日(金)19:15／2月6日(土)14:00
会場：すみだトリフォニーホール 大ホール
指揮：上岡 敏之（Toshiyuki Kamioka）
クラリネット：重松 希巳江
ファゴット：河村 幹子
＜曲目＞　J.シュトラウス：小品集
R.シュトラウス：二重小協奏曲 TrV 293
J.シュトラウス：小品集
R.シュトラウス：「バラの騎士」組曲
※指揮者の上岡氏はドイツ在住のため公演がこの曲目のとおりに実施されるかは未定。
上岡はドイツのヴッパータール交響楽団やザールラント州立歌劇場のニューイヤーコンサートに複数回出演し、珍しい曲を多数振っており、2018年1月の新日本フィル定期でもシュトラウスの珍しい曲を披露しているので、期待されたい。（この時の演奏は定期会員用の特典CDとして限定配布された。）
なお、翌7日（日）には岐阜県の可児市文化創造センターで出張公演を予定している。曲目が同じかは不明（16時開演予定）
問合せ　新日本フィル 03-5610-3815

●新日本フィル 室内楽シリーズXVII 楽団員プロデューサー編 #139「ウィーンへの思慕～愛、憧れ、耽美」＜Produced by 菅沼希望＞
2月17日(水)19:15　すみだトリフォニーホール 小ホール（東京都墨田区）
(Vn)ビルマン聡平、田村安紗美
(Va)脇屋冴子、濱本実加
(Vc)長谷川彰子、飯島哲蔵、(Cb)菅沼希望
＜曲目＞ランナー：ワルツ「ロマンティックな人々」Op.167（弦楽五重奏版）
「バラの騎士」ワルツ（弦楽五重奏版）／メタモルフォーゼン（弦楽七重奏版）
南国のバラ（弦楽五重奏版）
シェーンベルク：浄夜, Op.4

●山形交響楽団　ユアタウンコンサート
2月28日（日）14時　新庄市民文化会館（山形県新庄市）　※7月26日の代替公演。出演者・曲目は同じ。（3月会報参照）

●トヨタ・マスター・プレイヤーズ,ウィーン
3月18日（木）19時　豊田市コンサートホール（愛知県豊田市）
3月22日（月）19時　札幌コンサートホール Kitara 大ホール
3月23日（火）19時　紀尾井ホール（東京）
プログラムA　全曲、ヨハン・シュトラウス一家の作品。※今年の春に予定されていた曲目と同じ。（昨年の12月会報記載）
問合せ　事務局 03-5210-7555

●神奈川フィル　フューチャー・コンサート大和公演
3月27日(土)14時　大和市文化創造拠点シリウス やまと芸術文化ホール（神奈川県）
指揮：三ツ橋 敬子（Keiko Mitsuhashi）
演奏：神奈川フィルハーモニー管弦楽団
司会&語り（ベートーヴェン）：竹平 晃子
＜曲目＞トリッチ・トラッチ・ポルカ／狩り／雷鳴と稲妻／春の声
ベートーヴェン：交響曲第6番「田園」
問合せ　神奈川フィル 045-226-5107